さいみんと
種付けの
誘惑

僕は長年ニートだったが、このままではいけないと一念発起して、清掃員のバイトを始めた。
ぎゃははっ なにあれ、笑える
ザワザワ
えっ!? 学校に変な人が!
ザワザワ
だが、外見が特徴的な僕は仕事先の学校でも生徒達から陰口を叩かれていた。

だけどそんな醜い僕に、優しく声をかけてくれる可憐な女の子がいた。
清掃いつご苦労様です
あっ…、うっうん…
彼女の名前は天〇リリサさん。一件地味な印象だがその優しい心と豊満なバストは僕の心を虜にした。

こんなに僕に優しいくしてくれるのは
きっと僕に気があるからに違いない。
彼女の気持ちに気付いた僕は、彼女の想いに
答えてあげたかった。でも勇気がでなかった。

だから闇ネットで見つけたアプリを使って彼女に告白する手助けをしてもらった。

リリサ！君は僕の女だ!!

は、はい…♡

自分の気持ちが僕に知られてたって分かったら彼女も恥かしいだろうからね。

これで僕達は恋人同士だね♡
はい♡
じゃあ…パンツを見せてくれるかな

こうでしょうか？
おお！いいよ！
次はスカートを脱いでみてよ
凄い！正直半信半疑だったが、これは本物だ！これさえあれば何でも出来る気がする…

ごくりっ…

ぬぎっ

ぬぎっ

おっ、おおっ…

すう

服の裾をあげて

ギュッ

リリサの怯える表情を見て僕は後悔した。ゴメン僕が間違っていた。
僕は黙ってアプリの効果強度を設定し直した。

ガばッ
ぶるんっ
する
スギ
スギ

むほほ、たまらない
おっぱいだね

あっ、見られると
身体が熱いです…

おや、熱があるのかな？
どれどれ

あ…

おや、本当に熱いね

ひっ

もみ

もみ

もしかして興奮して発情してるのかな？

あっ…

ザュプッ

ふふふ
ファーストキスは
僕がいただき

リリサちゃんの
唇柔らかい…

くいっ

ほらもっと舌を搦めて
は、はいっ…
くちゅ
ぎゅっ
キュン…
おふっ、いいよ
えろいキスだ♡
くちゅ
ぬちゃっ
あっ…♡
頭がぼーっしてとろけそう♡
はぁ
はぁ
あっ♡
とろ〜お
ぬちゃっ

はぁ♡
はぁ♡
ぬちゃ
ぬちゃ
ふふふ
気持ち良さが
分かってきたね
あぁ♡
頭がくらくら
して身体が
熱いです…♡
くちゅ
もう準備は
良さそうだね

…？何の準備ですか？
リリサちゃんのを見せてもらうんだよ
一番大事な部分をね♡
はぁ
はぁ
くちゅ

え!?
それって…!

いや…

平気だよ
僕達恋人同士だろ

ほら、見えて来た
カワイイ陰毛だね♡

ああああっ…
いやぁ…

ぐいっ

あっ！
これが現役JKのおマ〇コか…神様ありがとう！
そんな見ないで恥かしいです…
ガバッ

これからもっと凄い事するんだから
はぁ
ひぃっ！
いやぁ…
ほら自分で広げておねだりして！
ぬちゃっ
くちゅ
ぐちゅ

え!?
そんなのむ…
……はい…
これが私の
おマ〇コです♡
あっ♥
はぁ
はぁ
ふふふ
効いてる効いてる
これなら最後まで
いけそうだ♡
くぱぁ♥
ぬちゃっ